

経営の
経営戦略の限界

戦術

経営理念

経営目標と使命に沿って

どのような方向性を設定するのか

：戦略を達成するための具体的なあり様

サテン「経営行動」「事実」と「価値」

量的限界

① 経営規模

3000万円 → 1億円 → 3億円 → 10億円

② 稲 : 100ha

大豆 : 30ha

小豆 : 15ha

酪農 : 120頭, 肉用牛 180頭

⇒ 農地を確保すれば良いのか?

⇒ 確保できる状況にある

③ 限界 : 労働時間が足りない

播種 → 管理 → 収穫 → 調整 → 整地

例 : 大豆, 15ha の規模
全体で 4万7000時間

播種 → 管理 → 収穫 → 調整 → 整地

例: ねぎ, 15ha の規模

全体で4万7000時間 (1人8時間として16年) : 経営者1人と作業者15人

↓
実際は30人くらい

⇒ 作業者は確保できるのか?

⇒ 出来るところもあれば出来ないところもある

業従事者の確保

① 30人の雇用をどうするのか

・ 地域に 十分な労働力が供給可能な状況にあるのか

⇒ 地域における農業への関心を醸成

② 農業の特質をふまえた雇用形態の導入

- ① 主体的特質
- ② 技術的特質 ☆
- ③ 商品_{RZ}的特質 ○

播種 → 管理 → 収穫

② 技術的特質

A. 生産行程の入れ換えができない

B. 作業内容に濃淡がある

播種と収穫時期に

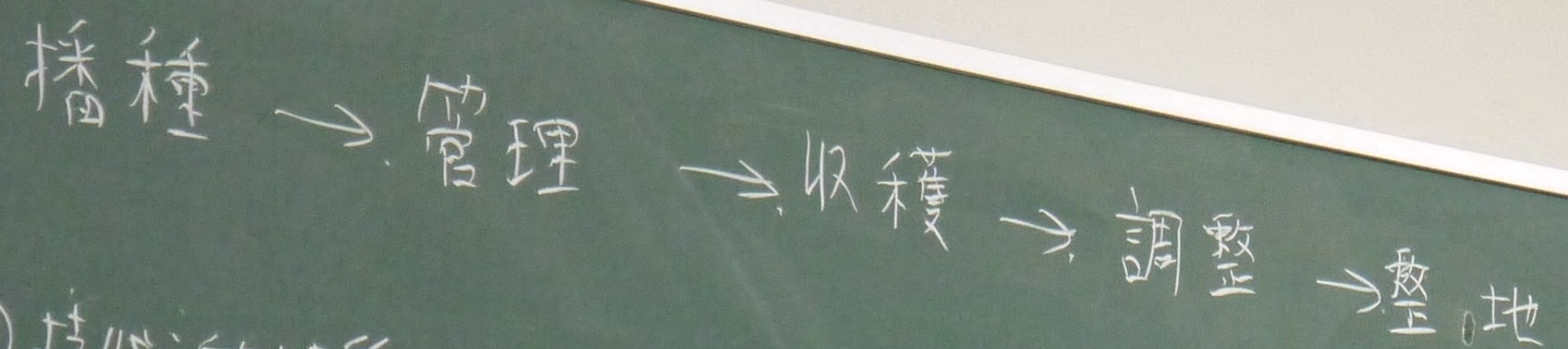
収穫と出荷調整作

③ 商品_{RZ}的特質: 日持ちにくい

供給

需心を醸成

態の導入



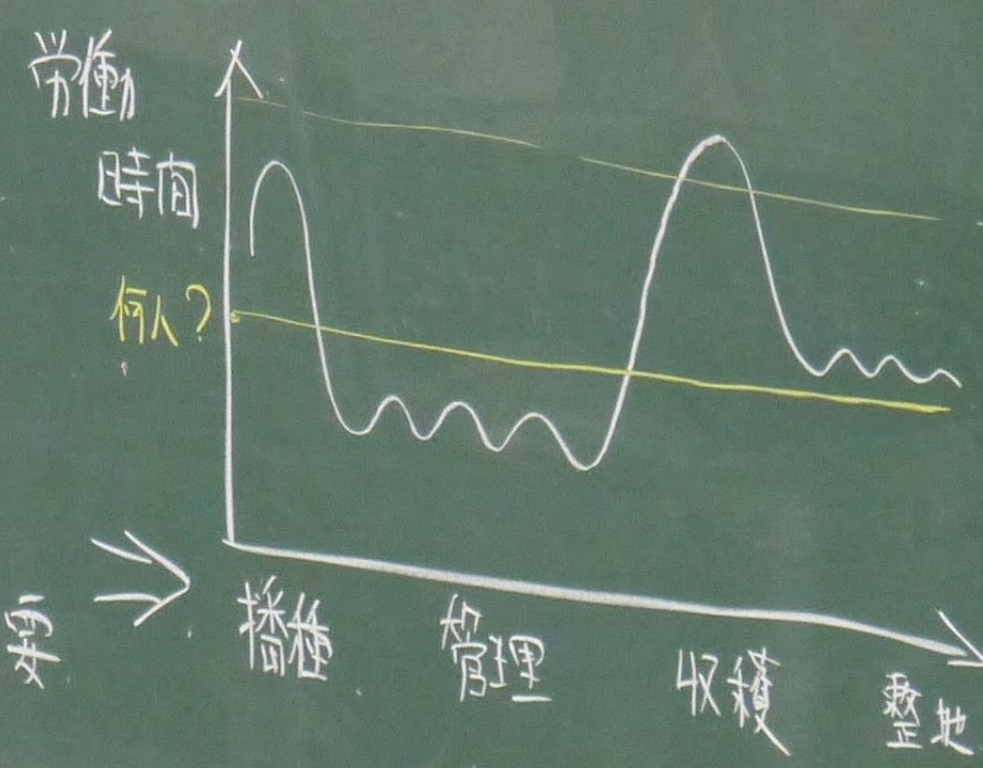
② 技術的特質

A. 生産行程の入れ換えができない

B. 作業内容に濃淡がある

播種と収穫時期に人手が必要

収穫と出荷調整作業が重なる



⇒ 最適な年間雇用者数の算定

十
期間雇用者の確保

③ 商品^{R2}的特質: 日持ちしない

農業経営のタイプ

① 伝統的家族経営

(自給的農家型)

Ⅲ. 企業への農業参入
(建設系 → 食品流通系)

② 従来型から脱却を図る経営

A. 家族経営からの発展型

B. 集落営農からの発展型

C. 行政・自治体による入植モデル型

D. 集出荷販売事業体の翼下型経営

労働

時間

何人

⇒